

妙法寺だより

平成二十九年 秋号



くお彼岸についてのお知らせく

一、秋のお彼岸の法要は**9月23日(秋分の日)午後2時から厳修致します。**ご家族揃ってご参列ください。

一、卒塔婆は、同封の申込用紙にご記入のうえ、専用の返信封筒にてご返信頂くか、FAXにてお申込みください。**9月18日締切です。**

一、墓参用のお花は、お彼岸の期間(9月20日～26日)に用意してごさいます。(数に限りがありますので、ご注意ください)

一、法要中は、「方便品」ほうべんぽん「如来寿量品」にょらいじゆりやうほんのお経をお読し、お題目をお唱え致します。お経本も用意してごさいますので、ご一緒にお唱えください。

一、別冊「ぶつきようスクール」を同封致しますので、ご参考ください。

一、当日は、護持費受付を設けております。未納の方は納入をお願い致します。

一、車椅子でご来寺の方はご一報ください。専用の駐車場、本堂内では専用の場所をご準備致します。

※**駐車場には限りがあります。公共交通機関をご利用ください。**

浄心道場のご案内

10月1日（日） 午後3時からの浄心道場は、曹洞宗の僧侶 藤井隆英ふじいりゅうえい 僧正をお招きし、坐禅修行を行います。ストレス社会のなかで、心を整える坐禅修行が今、見直されております。どなたでもご参加頂けますので、お気軽にご参加ください。



■タイトル

禅に学ぶ、人生の日々を安らかに過ごす智慧

■内容

禅の本質は「安楽の法門」です。安楽とは「苦しみや悩みがなく、身心ともに心地よくくつろいでいる理想の安らかさ」と説かれています。禅が伝える安楽を導く方法、それが坐禅や作法です。心地よい禅の作法に委ねながら、人生の日々を安らかに過ごすための智慧を学んでいきましょう。

■講師先生のご紹介

曹洞宗の僧侶 藤井隆英 僧正は、禅の身体・哲学・社会活動・マインドフルネスに通じ、年間400件以上の法要、法話や禅体験研修の指導等を行う座禅・瞑想の指導者です。



昨年の坐禅会の様子



宗祖御入滅報恩会式

宗祖日蓮大聖人御入滅 第七三六遠忌
開山日昭聖人御入滅 第六九五遠忌

10月11日（水）午後5時より

宗祖御入滅報恩会式は、通称「お会式」と呼ばれ、弘安5年10月13日に御入滅（ご逝去）されました宗祖日蓮大聖人、そして妙法寺を開山された日昭聖人の遺徳を讃える法会であります。また、年に一度の**“妙法寺感謝祭”**と位置づけ、参拝の皆様には楽しんで頂きたいと考えております。

檀信徒のみならず、家族、親戚、友人、ご近所の方などお誘い合わせのうえ、たくさんの方々のご来寺お待ちしております。

○午後5時～ 御会式法要

宗祖日蓮大聖人 御入滅第七三六遠忌、開山日昭聖人 御入滅第六九五遠忌を営みます。

○午後6時30分～ 郷みん、S 民謡コンサート

毎年大変ご好評を頂いております「郷みん、S」の皆様が「津軽三味線・民謡・踊り」をお届けします。民謡界の若手スーパースターが本年もやって来ます。

○午後7時30分～ 落語家 露の団姫

太神楽曲芸師 豊来家大治朗

落語家でもあると共に、天台宗の尼僧さんでもある「露の団姫」さんが、夫の曲芸師「豊来家大治朗」と共に登場されます。

○余興終了後～ 妙法寺万燈講参拝

余興終了後には、境内にて妙法寺万燈講による纏万燈まとばんどうが奉納されます。皆さまも是非一緒に楽しんでください。

詳細は同封のチラシをぜひ参考ください

十月十二日 池上本門寺の

万燈講に参加してみませんか？

妙法寺万燈講では、毎年10月12日、日蓮大聖人のお逮夜の日に、御入滅の聖地、池上本門寺に万燈を奉納致しております。

江戸時代に栄えた参詣方法を今に伝え、纏まとを振り、太鼓や鐘をリズムカルに奏で、数十万人の参拝者のまん中を通って、楽しく参拝致します。お囃子太鼓は、練習会で数度ご参加頂ければ習得できます。また半被は妙法寺で準備致しますので、お気軽にご参加ください。



お葬儀を考える

本当に良いお葬儀の形とは

〽 昨年行ったアンケート調査と

伯父の逝去 〽

昨年行いましたアンケート調査の中で、葬儀に対する質問や不安の声が多く寄せられました。その主な内容としては、

“自分の葬儀は妙法寺の本堂で行いたい!”

“お寺で家族葬はできますか?”

“葬儀は高額なイメージがあり、経済的に厳しいなかで、

もしもの時に葬儀を行えるのか不安だ”

と、いうものでありました。

私自身（住職）もエンディングノート（エンディングノート）を執筆したことをきっかけに全国の研修会やセミナーの講師として招かれ、お話をさせて頂くたび、葬儀に対する不安を多く耳に致します。皆様も歳を重ね、近親者の葬儀に参列する機会が増えるにつれ、自分の葬儀についても考えることがあるのではないのでしょうか。

先日、小さい頃から面倒をみてくれた私の伯父（先代住職の兄）が逝去致しました。伯父は、独り身であったことから、晩年は私達家族が見守っておりましたが、今年の4月下旬に浄土へと旅立ちました。私が喪主と共に葬儀の導師を勤めさせて頂

いた機会に、改めて現代の葬儀事情について深く考えるきっかけとなりました。



住職が作成したエンディングノート。ご希望の檀家さん・信徒さんには差し上げております。お声掛けください。

〽 インターネットを検索すると… 〽

インターネットで葬儀について検索すると、安価な葬儀プランが溢れています。金額ばかりが目立つ広告を見て思うことは、葬儀で一番重要視されるのは価格でしょうか。僧侶として、今までにたくさんの葬儀を経験する中で、安く済んだお葬式が、良いお葬式だったわけではありませんでした。中には丁寧さや親切心、プロ意識に欠けた葬儀社さんや、最終的にはインターネットで掲載された金額の倍以上の金額を請求されたケースもありました。人生最後のかけがえのない儀式で、遺族や参列者が嫌な思い、後悔されている姿を見ると、本当に悲しい思いが致します。

〽 良いお葬儀とは 〽

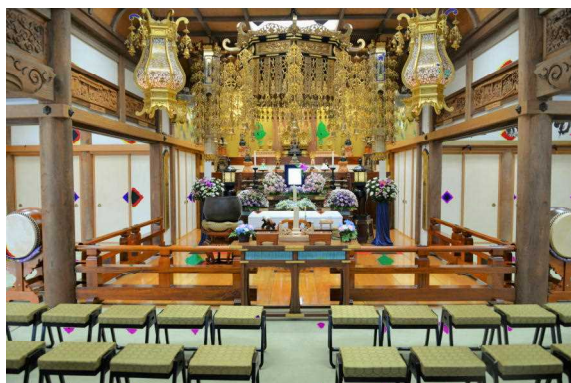
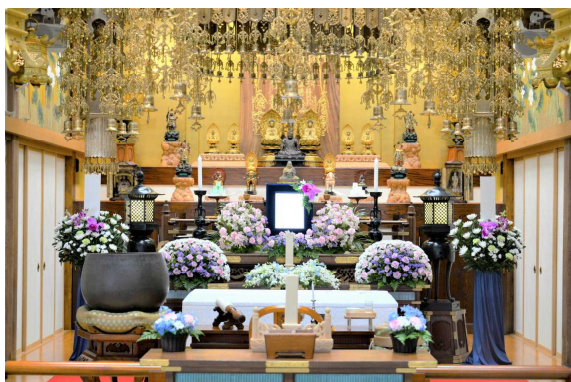
では、どんな葬儀が良い葬儀なのでしょうか。それは葬儀の

大きさや豪華さではなく、共通しているのは、「残された遺族が心穏やかに弔うことができる葬儀」、「悲しみのなかにも温かさを感じることが出来る葬儀」、「遺族の後悔の無い葬儀」であると感じます。『お金がないから、誠意に対応してくれるかわからないけれど安かったからネットです』と、判断基準の全てが、お金であるというのは大事な人の最期の場として寂しく感じる場所でもあります。しかし現実問題として経済的な問題は大きく、気持ちはあるけれど難しいという方もたくさんいらっしゃいます。

妙法寺が考える良い葬儀を形に

今回のアンケートや私が経験してきたことを踏まえ、故人への尊厳、ご遺族の想いを大事にした葬儀を経済的に負担が少なく出来ないものかと考えました。

そこで横浜市磯子区に本社がある「横浜セレモ株式会社」様にご協力頂き、妙法寺の特別プランを作って頂きました。このプランのなかで大事にした項目は、「湯灌（ゆかん）」というものです。「湯灌」とは、亡くなられた方の体や髪を洗い清め、化粧を施し、旅立ちの身支度を整え、来世に導かれるために現世の汚れを洗い清める儀式です。これは費用もかかることから、費用を抑えた葬儀では、ほとんど行われません。しかし、生涯を閉じられた故人には、生死の苦しみを洗い流し、心身共に清らかならなうて、穏やかに旅立ってほしいと考えます。そして湯灌の儀式によって、ご遺族が故人の死を受け入れる手助けにもなるのです。



本堂での葬儀は、斎場には無い厳かな雰囲気であると共に、多くの人数がご参列頂けます。



家族葬・親族葬が中心に行われる客殿。そのまま通夜振る舞いも行えます。

妙法寺ので葬儀

妙法寺では、本堂や客殿を葬儀式場としてご利用頂けます。客殿を利用した少人数の家族葬・親族葬から、本堂を利用した大きな葬儀まで、幅広くお使い頂けます。菩提寺である妙法寺の御本尊の前で葬儀を行い、浄土へと送ることが、どこの斎場よりも意義の深い葬儀であると考えております。

妙法寺プランとは

妙法寺プランとは「横浜セレモ」様をお願いした特別なプランです。先程お話しをしました「湯灌」も含め、葬儀で必要となる一式を60万円（税別）程で施行して頂けます。「お通夜振る舞い・精進落とし」等のお料理の代金、「お布施」は含まれておりませんが、明瞭で良心的な金額であると考えております。もしもの時に備えご参考頂き、妙法寺にお気軽にご相談ください。



（右） 社長の森さん

（左） 担当者の岩澤さん

社長の森さんは、妙法寺の古くからの檀家さんであることから、プランづくりや今回の祭壇のサンプルづくりに大変なご尽力を頂きました。

お知らせ



前号の夏号にて、10月11日の御会式法要に境内にお飾りします、提灯の奉納を募集しましたところ、多くの方々より御奉納を頂きました。この場をお借りして、謹んで御礼申し上げます。10月11日の御会式当日には、たくさんの方の提灯で境内を照らしてくれると思います。檀信徒の皆様には、新装しました御会式法要に是非ご参列ください。

また、提灯を御奉納くださいました方には、ご自身のお名前が記された提灯を見に足をお運び頂ければと思います。

